

松「」つある解りな事難を云つて聞かす」

青「まはつと解りするは出當か申す」つ答へて」

松「おれは解りな事難を云つて聞かす」

青「まはつと解りするは出當か申す」つ答へて」

松「おれは解りな事難を云つて聞かす」

青「まはつと解りするは出當か申す」つ答へて」

松「」

青「まはつと解りするは出當か申す」つ答へて」

松「」

青「まはつと解りするは出當か申す」つ答へて」

松「おれは解りな事難を云つて聞かす」

青「」

松「おれは解りな事難を云つて聞かす」

青「まはつと解りするは出當か申す」つ答へて」

灘「禮狀を書かし判をとると云ふぢやありませんか」
松「そんな事はない」

平「私は最初解職せよと云はれたので怠け者になるのは嫌だと云つた時掛長はお前が嫌だと云ふのは豫期して居たと云つた、嫌だと云ふのを豫期して居たなら何故最初から解雇しな^ぬのですか又後藤と云ふ人もそうです、此の人は感心な人で非常に勤勉で誰でも意外に思つて居ります、この人なども持つて行くと仕事が忽ち違ふと申して居りましたが持つて行くのが足らない爲に首になりました」

松「揭示してその様な事のない様にしてある多数の中には一人て幾位働いても全体の能率から云へば怠け者となる故に折れ合ひが大事なのだ」

平「然し怠け者としてはいやだ」

松「君もまゝ口をよく探せ又氣が變つて働く氣になるであらうその